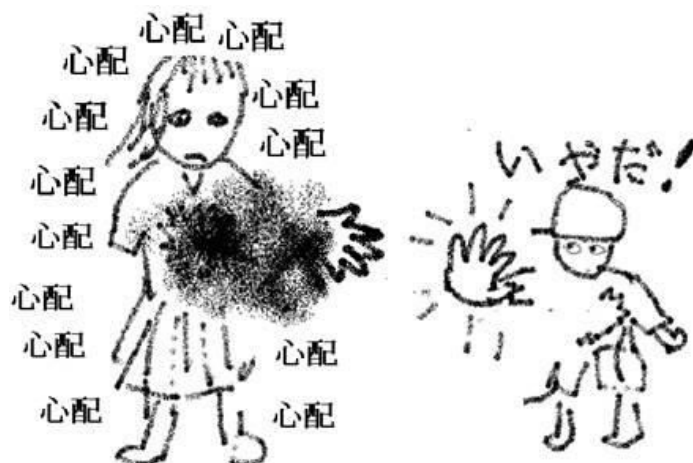


## 統合失調症の治し方 [思考にはまることについて・子育ての参考]

育てにおいてはそうはいきません。のべつまくなし、24時間一緒にくっついて生活することになります。子供を抱くと、子供との間に「不調和波動」の移しあい関係になってしまいます。それは何度も言うように、母親が何か子供に対して悪いことを考えているわけではありません。子供に何か悪い事をしているのでもありません。ただ、思考にはまっているだけなのです。例えば「どうすればいい母親になれるのか」と悩み、考え込んでいます。その考えこんでいること自体が子供との心の断絶を生んで、「不調和波動」を子供にかけているのです。それなのに、またまた考えます。悪循環です。

子供（赤ちゃん）はそんな親の「不調和波動」が移ってくるのを感じ、苦しんで夜泣きが止みません。その証拠に他の人が抱くと赤ちゃんはとたんにやすらかになってすやすや寝ています。赤ちゃんは、そんな「不調和波動」を出し続けている母親と四六時中一緒に暮らさないとイケないのです。そうしてとうとう赤ちゃんのときにすでに頭が「不調和波動」にロックされてしまうわけです。そんな親子関係を幼少時より根本的に改善してあげることが大切なのです。

三、四歳になって、保育園や遊びなど、子供が、社会的生活を送るようになると、症状が表に現われるようになります。一日中落ち着きがありません。一日中わーわー騒いでいます。じっとして、同じ事をする事ができません。一日中どたばた動いては倒れるように寝たかと思うと、目覚めるとまた走り出す。これの繰り返しです。親が叱っても表情一つ変えません。他人に叱られても全く意に介しません。母親はそんな子供に一日中どなっています。しかし、子供はそれに聞く耳を持ちません。・・・それは、母親が思考にはまっています、子供もまた思考にはまっています、「不調和波動」を移し合いの関係になっていて、心が全く通わない親子関係になってしまっているのです。子供を見ると無意識にイライラしてしまうというのが、その特徴的兆候です。それは親子が不調和波動移しの関係にロックされてしまっているのです。



.....

母親が一点を見ることで思考を消すことを覚えると根本的に治すことができるわけです。

.....

#### 親の心配こそが諸悪の根源

このような親子関係についての事実を事実として認識することが大切です。統合失調症の原因は親から移った「不調和波動」です。親が子供に何か悪いことしたとか、育て方が悪かったとか、などという表面的なものでは決してないのです。もっと心の基底の問題なのです。例えば、ある地域で、人が病気でばたばたと倒れたとしましょう。その原因をいろいろと探します。食べ物のせいだとか、罰が当たったとか、水のせいだとか、いろいろと考えますが、本当の原因に気づかないと何をしても根本的対策をたてることはできません。

・・・統合失調症において表面的な原因をいくら探しても無意味なのです。食事のせいとか、環境のせいとか、友達のせいとか、育て方のせいとか。そんなことをしてきたからちっとも治せなかったのです。親子における心の「不調和波動移し」の真相に気づくことなのです。

.....

親子が一身体のようになって「不調和波動」の移し、移され関係になっています。

その特徴としては、親がのべつまくなしに子供の事を心配していることです。親は子供が統合失調症になったから心配していると主張しますが、その以前から、生まれたときから、いや、お腹にいるときからすでに子供の事を心配し続けています。たとえ子供に何の問題がなくても、問題を探しまで子供を心配するのです。例えば、すべて非の打ち所なく健康なのに、病気にならないか心配するのです。そのような親の心配こそが「不調和波動」を子供に移す行為なのです。ところが、親はそんな自分のことを愛情によって心配しているのだ、と確信を持っています。だから、信念をもって心おきなく心配をするわけです。

.....

子供を心配することが諸悪の根源なのです。

.....

子供の顔を見るとつい思考にはまってしまう。

ところで、親に思考にはまらないよう指導して、治療者の前ではちゃんとできたのに、子供の顔を見た瞬間に思考にはまって心配が始まってしまうというのが、ほとんどの親がしてしまう、大きな問題です

.....

「どうですか？治療者のわたしを見ているときには、気持ちが楽になるけど、子供と対面したときに、変なきつい関係になるでしょう。これが不調和波動移しの関係なのですよ！」と自覚してもらおうわけです。さらに、子供が小学校高学年以上になっていけば、子供にも母親との関係が、そんな「変なきつい関係（不調和波動移し関係）」になっていることが理解できます。

.....

親子はかくも密接である。

アスペルガー症候群と診断されたある娘がいました。この心の病も思考にはまってしまい生まれつき他人と心を通わすことができなくなったのが原因です。母親が娘に治療を受けさせに連れてきました。しかしながら、娘は治療を拒否しました。そこで、母親には「娘は治療をしなくても母親のあなたさえ治れば、娘は治るから」とお話しして、それからはずっと母親だけの治療を続けていました。予見した通り、母親を治療して思考には待っている状態から抜け出させるにつれ、娘は初回に來ただけなのに、その後どんどん改善していった、とうとう結婚できることになりました。結婚して姑と同居しているのですが、あれほど心配していたのに、心配していた人間関係のトラブルも少なく、順調に同居生活をして、子供も生まれました。子供が1歳になったころです。目出度く帰郷して、一月半ほど実の母親と一緒にすごしました。そこから、また問題が再発しました。帰郷から家に戻った瞬間に人間関係が壊れ、姑との確執が噴出し、果てしのない喧嘩になってしまい、パニックになり、泣きながら母親に電話してくるというのです。母親は困った顔で、受診に來ました。母親の目を見た瞬間にその真実がわかりました。目がキョロキョロして完全に母親が思考にはまっているのです。そこで、こうお話ししました。「娘は、あなたのもとに帰郷したころから、娘はもとの思考にはまった不調和波動移しの親子関係にもどされてしまったのです。そうしておかしくなってしまうから家に戻ったというわけです。あなたは娘を見た瞬間に無意識に思考にはまって娘の心配を始めていたはずです。そのことにあなた自身が気づいていなかったのです。」このようにお話しすると、「そういえば娘にあったとたんに心配が始まり、人の悪いことばかりが目につくようになっていました。今、指摘されるまでそれに気づきませんでした。」かくして母親の治療を再度始めたらすぐに娘も落ち着きました。娘は初診時以外治療を受けたことはたったの一度もありません。しかし、母親を治せば、子供が鏡のように治るわけです。これが母子関係の真実です。

.....

ところで、多くの親は「子供を治すのにどうすればいいの？」と方法を聞こうとします。これまでずっと子供を治す方法を求め続けてきました。子供との話し方がどうの、食事の仕方がどうの、親子の付き合い方がどうの、などという方法論ばかり追い掛け回しています。排気ガスでいっぱい交差点の真ん中でガス中毒になり、そこでいろいろな呼吸の仕方を勉強するようなものです。排気ガスを消すか、そこから逃れない限りガス中毒は治りません。だから、ちっともよくならなかったはず。親が思考から抜けた意識の状態に気づきさえすれば、何をしようとも、しなくても子供は治癒に向かうわけです。反対に親が思考から抜け出ることができなければ、何をしても治らないのです。

.....

また思考にはまってしまう。これが難  
渋する原因です。

何度も繰り返し「調和波動の状態」に  
戻してあげることが必要です。そして  
さらに、心が軽くなるにしたがって、  
・・・空や海や草などの自然と向き合  
うよう指導します。そのためには歩く  
事を指導しています。空や草を見なが  
ら歩くことです。

過去 ← 思考 → 未来



今の瞬間

思考人間は過去と未来ばかり見て  
今の瞬間を生きていない

.....

心は「思考にはまっている」か、見ることで「思考が消えている」かのどちらかです。  
それに注意しましょう。

.....

気づきが大切です

思考にはまっているとき、その瞬間にそれに気づくこと  
です。自分が思考にはまっていることに  
気づくわけです。



あっ、そうかという気づき

例えば、「ああ、大変だ。どうしよう、こうしよう、ああでもない、こうでもない」など  
という気持ちがあるとき、それは思考にはまることで気が詰まり心に余裕がなくなっ  
ている状態です。それが苦玉を作ります。苦玉があると、どんなことでも苦しくなっ  
てきます。だから、外部にある問題が問題なのではなく、気つまり＝苦玉こそが問題  
なのです。反対に、気がつまってない心はどうでしょう。「なんとかなるさ」「どう  
でもいいや」「まあ、いいか」などという心の状態で、そんな余裕があると物事  
が自然にうまくいくものです。

著者 稲福 薫 (いなふく かおる) いなふくクリニック院長

一九五二年沖縄県宜野湾市生まれ、長崎大学卒業。琉球大学医学博士。

沖縄県立中部病院、国立がんセンター病院、琉球大学医学部産婦人科講師、

沖縄赤十字病院産婦人科部長などを経て、現職。日本産婦人科学会専門医。

日本女性心身医学会会員。著書「更年期を癒す」(二〇〇一年ボーダーインク社刊)。「心  
の苦しみを癒す」(二〇〇三年、ボーダーインク社刊)。

いなふくクリニック 沖縄県宜野湾市真栄原三の十二の二十

TEL 098-890-5300

●参考HP：心の苦しみの完全解消法 <http://www5.ocn.ne.jp/~siisa/>